

関係各位

2010年4月28日
コヴィディエン ジャパン株式会社

コヴィディエン ジャパン、国内初 100%合成吸収性の硬膜専用シーラント材を発売

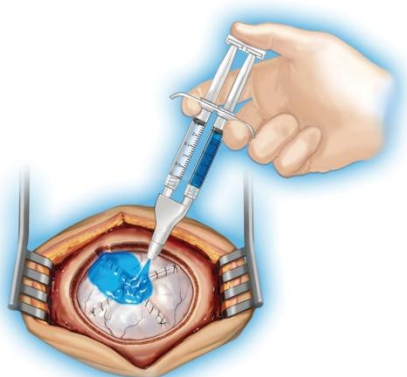
グローバルヘルスケアカンパニーである Covidien plc (本社アイルランド・ダブリン)の日本法人で、外科領域でのシングルユース医療機器を扱うコヴィディエン ジャパン株式会社(本社・東京都世田谷区、代表取締役社長:野田 良)は、2010年4月より、国内で初めて100%合成吸収性の硬膜専用シーラント材である商品名「デュラシール™ ブルースプレー」の発売を開始いたしました。

「デュラシール ブルースプレー」は、合併症を起こすおそれがある髄液漏を防ぐため、硬膜縫合後に補填的に使用されます。他の製品との併用を必要としないこのシーラント材は、従来の方法と比べてより早く漏出防止が出来るようにデザインされています。

■デュラシール ブルースプレー



■「デュラシール ブルースプレー」の使用イメージ



《開頭術市場の概略について》

開頭術は脳動脈瘤クリッピング術、脳腫瘍摘出術などをはじめ、年間 7 万例強と推定されます。(株)矢野経済研究所「2008 年版 メディカルバイオニクス(人工臓器)市場の中期予測と関連製品の徹底分析」より)

未破裂脳動脈瘤は一般の成人の約 4~6%位がこれを有すると言われており、頻度が多い疾患です。(未破裂脳動脈瘤悉皆調査 HP より)出血率は個別の瘤により異なるため一概にその危険性をまとめることは困難ですが、総合すると年 0.5~1%の破裂の危険性があるといわれています。大きさの大きい瘤、脳の後方にできる瘤、形のいびつなもの、多数できている瘤などは破裂率がそのような因子のないものよりも高いと考えられています。(脳神経外科疾患情報ページ HP より)

一方、原発性脳腫瘍の発生は人口 10 万人当たり年間 10~12 人の頻度と言われていています。脳腫瘍は子供からお年寄りまでさまざまな年代に生じます。原発性脳腫瘍も体のほかの部分の腫瘍と同じように、良性、悪性腫瘍に分かれます。脳腫瘍が大きくなってくると、腫瘍周囲の脳機能を障害しさまざまな症状が出てくるとともに、頭蓋内圧亢進が生じてきます。たとえ良性腫瘍であったとしても腫瘍の部位、大きさにより命を左右しかねないのが脳腫瘍の特徴です。部位によって脳の機能が分かれていますので、腫瘍の部位に応じて異なった機能障害が残る(後遺症)可能性があります。腫瘍の性質によっては放射線治療、化学療法などの補助療法を組み合わせなければならない場合もあります。(脳神経外科疾患情報ページ HP より)

脳脊髄液の漏出は、次のような合併症のリスクがあります。

- ① 脳表に貯まって脳を圧迫する(脳膜下水腫)
- ② 皮下に貯まる(皮下水腫)
- ③ 皮膚切開の部分から漏れる(髄液漏)
- ④ 鼻から漏れる(髄液鼻漏)

皮膚や鼻から漏れ出てきたときは、細菌が入り込むリスクがあるため、場合によっては緊急の処置の対象となります。

<コヴィディエンについて>

グローバルヘルスケアカンパニーであるコヴィディエンは、革新的なメディカルソリューションを創造し、様々な医療分野で貢献すべく事業展開しています。医療機器、医薬品、医療用サプライの 3 つのセグメントで業界をリードする製品ラインアップを揃え、世界 60 カ国に社員 42,000 名を有し、140 カ国に製品を販売しています。2009 年度の総売上は 107 億ドルです。

当社の事業内容について詳しくお知りになりたい方は www.covidien.com にアクセス下さい。

<コヴィディエン ジャパン株式会社について>

本 社： 東京都世田谷区用賀 4 丁目 10 番 2 号
代 表 者： 代表取締役社長 野田 良(のだ りょう)
事 業 内 容： 医療機器および医薬品原料等の輸入・販売
U R L： <http://www.covidien.co.jp>

COVIDIEN、コヴィディエン及び COVIDIEN ロゴマークは Covidien AG の商標です。
TM を付記した商標は Covidien company の商標です。

本件に関するお問い合わせ先
コヴィディエン グループ ジャパン人事総務本部広報グループ
澤田・堀内・猪田
TEL: 03-5717-1700